

スタディーツアー      テーマ   「島の持続可能な観光のために私たちができること」

島の持続可能な観光に対して私たちができることは、「尊重」することである。何故なら、観光とは誰かの生活区域へ足を踏み入れることであり、その基盤を担う環境や地域住民の方へ敬意を忘れてはならないからだ。そう考えた理由は、以下の視察体験にある。

まず、地鉤温泉である。ここでは、豊かな草木と岩壁、一面の海を展望しながら入浴することができる。そんな自然に富んだスポットである一方で、温泉周辺にゴミが投棄されているのを見かけた。不法投棄に関して、私は「自分は関係がない」という傲慢さ故の行為であると感じる。普通、住まう地域を自ら汚そうとはしないだろう。そのため、観光客の「島民」意識の低迷が課題であると考えた。

次に、式根島の緑と青が一望できる神引展望台だ。都市生活では自然を直に味わうことが難しいため、大変魅力的である。その反面、島内でお金が落ちる場面が少ないように感じた。展望台や温泉、海水浴場などの観光スポットは、ほとんど無料なのである。観光に来た身としては、このような環境を無料で満喫できることに感銘を受ける。しかし、持続可能性を考えた際に、収益は欠かせない問題であると捉えた。

最後に、野良猫である。「猫島」と呼ばれるだけあって、歩く中で多くの野良猫を見かけた。どの猫も非常に人懐っこく、つい足を止め眺めてしまう。その中で、衛生面について疑問を感じた。ワクチンは打っているのか、病原菌を持っているのか、逆に人間からうつしてしまうのではないか、などと疑念が募る。そのため、迂闊に触っていないものか躊躇ってしまう。猫と人間の両者守るために、猫の管理体制が必要になると思案する。また、猫との共存が可能になれば、それは重要な観光資源になりうる。

以上から、現在の式根島には島民と観光客間でギャップがあり、現状両者が調和できていないのだと考察した。そのため、リゾート化し収益を得ることだけが一概に良いとは言い難い。式根島の観光を一新するのではなく、自然や猫などといった島の資源を尊重し、守り続ける姿に惹かれる人が集まる島にしたい。そのために、まずは訪問者が敬意を持って島と接し、その姿勢を経て島民と手を取り合っていくことが不可欠である。したがって、「尊重」することこそが、島の持続可能な観光に対して私たちができることであると考えた。